

キャプネット・みやぎニュースレター

第41号

2013年12月

〒980-0812

仙台市青葉片平1-5-20-5F



半澤・村松法律事務所内

弁護士 村松敦子 気付

発行・編集 子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ

震災支援に思う

パーソナルサポートセンター総務部

キャプネット・みやぎ電話相談員 高木 ひろ子

大震災から2年9ヶ月が経った初冬・・・

被災地にお住まいの方々、生活困窮の方々にとって本当に辛い冬がやって来た。

[支え合いの良い関係が生まれる支援]をめざし、孤独死、社会的孤立等、異常や早期発見に努め、援助ではなく自立につながる支援をと、駆け足で走り続けて来た。

何度訪問しても会って頂けない方、やっとお会いでき挨拶をかわせる関係になり

お話を伺うとこれからの生活の不安（復興公営住宅の抽選等）や問題を一人でいっぱい抱えて先に進めないでいる。このような方がたくさんおられる事は危惧していたものの、いかにして絡まった糸を解きほぐしていくかが課題でまさにソーシャルワークである。

まず優先順位を決め行政との連携、ケース会議を経て専門職の方に迅速に繋ぎ又様々な対処のための情報共有にて方向性を探りおひとりおひとり丁寧に関わっている。

物資面での生活支援からメンタル面、自立の為の就労支援に移行しつつ進められている昨今、焦りや不安からメンタル面の影響が思いのほか大きい。

やむを得ない事情で家族と暮らせない子どもにとっても不安材料は図り知れない。

不登校児が増えているとも聞いている。[子どもの心のケア]は[子育て中の母親の心のケア]につながる。

育児不安の母親への支援がどれほど必要で大切な事かが支援活動を通じ垣間見ることができる。

体調の変化などで、SOSは身近に発信されている。



「本当はどうしたかったのか!」「どうしてほしかったのか!」

「どう言ってほしかったのだろうか!」・・・

悩む私たちがいる・・・

心にゆとりがないと寄り添うことは難しい、ほめる言葉も浮かばない。身近な仲間との何気ない会話が癒しとなり、豊かな言葉に代わっていく、少しでも気持ちが楽になってほしいと願いつつ・・・

大切なあなたの為に私たちがいるのです。一人で抱え込まないで！！}との思いを配信し続け日々の支援に取り組んでいる。

了

～高木さんは電話相談員第3期生としてキャプネットみやぎの活動に携わりながら、震災後は2年間の仮設住宅の（暮らし再生プランナー）を経て、現在 パーソナルサポートセンター総務課に勤務している。

一般社団法人パーソナルサポートセンターとは・・・

分野をこえて 様々な団体が連携しあって、サービスの普及という目的のもと、支援を必要としている方を、様々な社会福祉制度、介護事業所や福祉施設などにつなげ、その方が地域で安心して暮らすことができるようお手伝いすることを目的に2011年に設立された。障がいのある方、DVの被害にあわれている方、ひとり親世帯、ニート、引きこもり、就労困難な人など、安定した生活を送ることが難しい状態にある方たちに寄り添い、伴走型支援を行っている。又、戸別訪問により生活困難を抱える人たちが想定を超える実態が明らかとなった為、就労に繋ぐための受け皿整備を本格的に進めている。



イベントのご報告

● 子ども虐待防止を訴える日本一周マラソン 甲斐さんを囲む会

元宮崎児童相談所職員、現在はNPO法人子ども虐待防止みやぎの会代表甲斐英幸さんは子ども虐待防止の周知を目的に5月に宮崎を出発、日本海側を北上し、北海道をまわり、7月28日に仙台に到着しました。ささやかでしたが、甲斐さんを囲む会を開催しました。車で伴走されている奥様も同席され、道中のご苦労などユーモアたっぷりのお話しに、とても和やかな会となりました。もちろん、日本の児童虐待防止の問題についても熱く意見を交換することが出来ました。甲斐さんは児相勤務の経験から、特に被虐待児の心のケアの薄さを問題にされていました。また、今の児童相談所をはじめとする虐待対応システムを根底から考え直すためにも、民間から積極的に提案等発信していく必要があることなど、互いに意気を強めた出会いとなりました。甲斐さんはその後も走り続け12月11日熊本まで到着しました。12月26日宮崎県庁前のゴールまであと一息です。最後まで応援したいと思います

● キャプネットみやぎ主催 我妻健太テノールリサイタル「歌と古楽器の調べ」

8月4日（日）仙台市シルバーセンター・交流ホールにて行われました。

今回も、多くの皆様にご来場いただき誠にありがとうございました

入場料の一部はキャプネットみやぎの活動に役立たせていただきます。

「被災地の精神的健康問題を考える研修会」を受講して

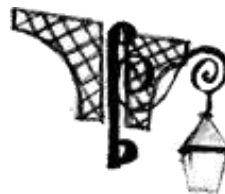
電話相談員 今泉 倫子

表記研修会が大坂純先生をコーディネーターに、仙台白百合女子大学で開催されました。被災地の現状がどうなのか、日頃マスメディアからは子どもを抱える母親の姿が伝わって来ないので、受講してみようと考えました。

4回シリーズの第1回は11月2日、子どもの健康問題がテーマでした。宮城県子ども総合センター所長、本間博彰先生の『災害に巻き込まれた子どもの心のケアのために』と題した講演では2年半の取り組みとそれにより分かってきた事を具体的に示され、子どもの遊びは言葉と同じ、大人が遊びに適当に付き合う事は子どもに傾聴する事と同じ意味になる、遊びは答えを見つける道具でもある。無力感を感じた事を言葉にしない大人が問題。子どもにとって話を聞いてくれる思いやりを持った大人が近くに居る事が重要で、その話の聴き方は、喃語への対応と同様相手より数秒短くがポイントであると話されました。

『どのように支援すべきか』をテーマにしたシンポジウム、あしなが育英会の林田吉司先生は阪神淡路大震災後設立されたレインボーハウスの例から、生き残った事を悪としている子がいるので、“寄り添って生きる”事を目的に“聴いてあげる”大人が必要と話されました。みやぎ子ども養育支援会の木村孝禅先生からはご自分の寺院を使用した障害者支援、子育て支援事業の実際が紹介されたが、仮設住宅の幼児を持つ親から、相談する人が居ないという意見があった事、サポートが必要なはずの母親たちがセーフティネットにかかりにくいという課題が示されました。大坂先生は復興を担う子どもをどうするか、現在に至るまでの先住者の力を生かす事が大事、長期的に次世代に何を託すか考えねばならないと結ばれました。10年後20年後の復興の主演となる子ども達とその母親達に寄り添うことが私達の基本姿勢で有ることを改めて確認しました。

第2回は11月23日、要援護者の高齢者や障害者がテーマで、エスポール出雲クリニック、高橋幸男先生は『認知症の人のよるべなさに寄り添うケア』と題する講演で、20年の臨床経験を基に認知症の人の辛さや不安についてケースをあげて話されました。



認知症の“からくり”として示されたのは、①さっとタイミング良く言葉が出なくなる(それ、あれの多用)。言おうとした事を忘れる→会議について行けなくなる→無口→社会的に孤立。②温かい会話が少なくなる→公的な役割から外される ①, ②の結果、主役→脇役→全てから外され居場所がなくなる、「蚊帳の外」「よるべない」存在になる。家族介護者に①の症状を受け容れてもらえず日常的に励まされる事が“叱られ続ける”というストレスを抱えるという構造。介護者は眉間にしわを寄せて励ます様になり、認知症高齢者は怖い顔に毎日叱られて、何も悪い事をしていないのとなってしまう。この「よるべなさに」寄り添うには“からくり”を受け容れ、コミュニケーションを取る事につきると話されました。この実践に基づいた話は、優しい声であっても迫力があり、納得する一方で心をグサリと突き刺された様に感じました。

『これからの支援を原点に戻って考えていこう』と題するシンポジウムで、ケア付き仮設住宅あがらいんの橋本泰典先生からは、障害のある入所者が仮設の住民との交流によって生きる意欲を回復したケースの紹介がありました。大坂先生は仙台市の場合として、要援護者の生活支援はハード面では遅いながらも形が見えてきたが、ソフト面で関係性を問い直し心の健康問題を考えていく事が課題となっていると話されました。

第3回は11月30日、『災害公営住宅移行期の課題』がテーマで、阪神淡路大震災の支援の教訓について関係した行政担当者、大学研究者から話があったが私には不消化で、分かった事はどうも縦割り行政に問題がありそうという事でした。印象的だったのは、子どもにけるお金が少なすぎないか？高齢者は過去の戦後の経験から自分達で立ち直る術をもっているはずだから、もう少し若い世代に豊かに暮らさせたいという意見でした。

3回を通して支援のあり方について改めて考えさせられましたが、利用者の求めは何か、その人らしく生きるための力を引き出す手伝いをするためには、逃げずに寄り添うことが全てであることを認識いたしました。貴重な研修会情報を紹介いただきました運営委員の志水田鶴子先生に感謝いたします。

※研修会詳細は <http://sendai-shirayuri.ac.jp/event/event001429.html>



ピアノの1日

電話相談員 我妻 要子

結婚して30数年、初めて家に一人という日をむかえた。その日は十数年ぶりにピアノを弾こうと思い、朝の片付けも途中のまま本棚からピアノの本を数冊選び弾き始めた。

一度レッスンした曲ならば何とかなると思い、ゆっくりゆっくり弾く。もっと気持ち良く弾きたいと何度も繰り返す。おもしろい。甘い物の次は塩辛いのを食べたくなるように、静かな曲の次は動きのある曲が弾きたくなる。きりが無い。作曲者を変えて弾く。さすがに臨時記号の多い曲は、耳は覚えているが譜が読めない。老化現象だろうか。譜のいくらか先を目で追って弾くのだが、今弾いている音と目に入る次の音を一緒に押したりする。そんなバカな。信じられない。と一人苦笑いする。

若い頃、ただダラダラと気の向くままの音の流れに魅力を感じなかった曲も、半音ずつ微妙に変化する音の重なりには不思議と感情移入する。食事もいらぬ。ただ弾いていたい。この曲はどんな状況でどういう気持ちで作られたのだろうか？と、あれこれ思いめぐらす。ふと、あの曲があった。と思い出の譜を捜しだし弾き始める。何度か繰り返す。涙が頬を伝わる。そして泣きながら弾く。ああ、私は泣きたかったんだ。義母の可哀想な姿と仕方のない現実。悲しかったのね…

自分の気持ちは自分でも解らない。でも意外とシンプル。ピアノは優しく優しく寄り添ってくれる。良いも悪いも言わない。真摯に私を丸ごとつつみ自分でも気付かない素の心の奥に温和しく謙虚に触れ、ほぐしてくれる。

この日、電話相談もこういうものかという感覚を受け取った。

活動報告 2013年6月～11月

—6月—

- 3日 第4回—3CSP 一般向け
- 4日 大崎市民生部子育て支援課研修3—1
CSP トレーナー派遣
- 6日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
- 10日 第4回—4CSP 一般向け
- 11日 大崎市民生部子育て支援課研修3—2
CSP トレーナー派遣
- 14日 のびすくママの気持ちトーク ファシリテーター派遣
- 15日 キャブネット・みやぎ総会・記念企画
「ネットワークという名のゆりかご」
- 21日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
青葉区要保護児童対策地域協議会
- 24日 第4回—6 CSP 一般向け
- 25日 大崎市民生部子育て支援課研修3—3
CSP トレーナー派遣
若林区要保護児童対策地域協議会
- 26日 よりそいホットライン運営委員会
- 27日 個別ケース面接
- 28日 宮城野区要保護児童対策地域協議会

—7月—

- 2日 富谷町虐待防止連絡協議会児童部会
- 3日 泉区要保護児童対策地域協議会
- 5日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
太白区要保護児童対策地域協議会
- 12日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
- 19日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
- 27日 運営委員会
- 28日 甲斐英幸さんを囲む会

—8月—

- 1日 NPO 法人子育て応援団ひよこ研修6—1
CSP トレーナー派遣
- 2日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
- 4日 我妻健太チャリティリサイタル開催
- 7日 NPO 法人子育て応援団ひよこ研修6—2
CSP トレーナー派遣
- 9日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
- 11日 イオン幸せの黄色いレシート運動店頭アピール
- 14日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
- 21日 NPO 法人子育て応援団ひよこ研修6—3
CSP トレーナー派遣
- 22日 新田東すいせん幼稚園 CSP 研修トレーナー派遣
- 20日 蔵王町要保護児童対策地域協議会研修会
講師派遣
- 24日 運営委員会
- 29日 仙台ブロック民生委員児童委員現認研修会
講師派遣
- 30日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
NPO 法人子育て応援団ひよこ研修6—4
CSP トレーナー派遣

—9月—

- 2日 第5回—1CSP 一般向け
- 3日 婦人保護事業関係機関ネットワーク連絡協議会
- 6日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
- 9日 第5回—2CSP 一般向け
- 11日 NPO 法人子育て応援団ひよこ研修6—5
CSP トレーナー派遣
- 12日 個別ケース訪問面接
- 13日 第5回—3CSP 一般向け
- 20日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
NPO 法人子育て応援団ひよこ研修6—6
CSP トレーナー派遣
- 21日 チャイルドラインみやぎ 連続講座
「東日本大震災の子ども・家庭支援の現状と課題」
震災後の子どもへの暴力とその対応について講師派遣
- 21日 運営委員会
- 24日 第5回—4CSP 一般向け
- 27日 多賀城市要保護児童対策地域協議会
- 28日 キャブネット・みやぎ電話相談員基礎養成講座②
- 30日 第5回—5CSP 一般向け
多賀城市要保護児童対策地域協議会

—10月—

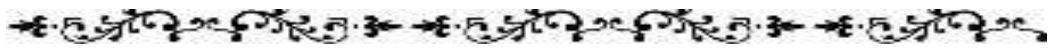
- 1日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
- 5日 キャブネット・みやぎ電話相談員基礎養成講座③
- 7日 第5回—6CSP 一般向け
- 12日 キャブネット・みやぎ電話相談員基礎養成講座④
- 18日 青葉区要保護児童対策地域協議会
- 22日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
- 23日 泉区要保護児童対策地域協議会
- 24日 サクラハイツ CSP 研修 トレーナー派遣
- 25日 宮城野区要保護児童対策地域協議会
- 26日 キャブネット・みやぎ電話相談員基礎養成講座⑤
運営委員会
- 29日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
若林区要保護児童対策地域協議会
- 31日 太白区要保護児童対策地域協議会

—11月—

- 13日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
富谷町要保護児童対策地域協議会
- 20日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
- 22日 ホームスタートトラスティ会議
- 24日 ママパライン電話相談受け手養成講座講師派遣
- 26日 のびすくママの気持ちトークファシリテーター派遣
- 14日 個別ケース面接
- 16日 七郷幼稚園頑張りな子育て講演会講師派遣
- 30日 大崎地区児童虐待防止シンポジウム講師派遣

毎月第二土曜日 相談員定例会

毎週木曜日 母親グループ

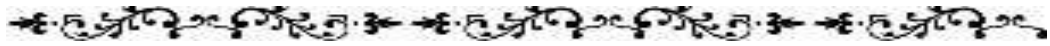


新規会員 会員更新 ご寄付

ありがとうございました♥

2013年6月～11月

順不同 敬称略



《個人会員》

高橋晃子 大塚憲治 古久保和子 西條康夫 橋本昭浩 大場準一 長谷川淳子 真山隆道 高橋實
山田かつ子 丸山水穂 舟山みどり 奥野早苗 安部紀司 蛭名隆三 渡辺美保 佐藤京子 佐々木房江
倉澤良太郎・範子 大沼昭 石島文香 西澤晴代 巨理弘子 佐藤佐知子 佐藤裕子 須藤真由美 菊池陽子 阿
部和子 久保徳高 佐藤悦子 遠藤克子 佐藤わか子 福田一彦 舟山真人 J,F,モリス 遠藤和子
水上範子 関根ふじ子 戸村たつ子 高木ひろ子 鎌田博子 増子よし子 赤松實 加藤裕子 松浦真
松浦弘子 安齋千佳子 堺武男 岩井みよ子 畠山光有樹 三星容子 菅原ゆり 町田晶子 山内礼子
武田靖 佐藤和枝 池田ミチ 阿部郁夫 我妻恵 我妻健太 塚本二郎 遠藤厚子 佐藤律子 山本蒔子
平櫻晶子 宮千代加藤内科医院加藤純二 大庭さち子 片倉由美子

《フラワー会員》

今泉倫子 内田正之 官澤里美 進藤道子 鎌田茂斗子 加藤瑛子 尾形光子 佐藤仁子 佐藤祐子
佐藤和枝 我妻要子 (株)青葉冷凍 菅原陽子 佐藤洋子 鈴木とき子 田澤二三代 遠山敏子
小田嶋礼子 鈴木美奈子 吉田淳子 岩井紘子 堀広子 高橋禎子

《団体会員》

NPO法人にこにこの家代表小岩孝子 保育所新田こぼと園 NPO 法人チャイルドラインみやぎ
ないとうクリニック内藤久実子

《特別会員》

佐久間敬子法律事務所 星毅 鈴木美枝 板垣努

《法人会員》

東北大学大学院医学系研究科社会医学講座法医学分野

《新規会員》

川嶋内科医院安田敏明 梶野千恵子 佐藤訓代

ご寄付

畠山光有樹 匿名

探しています！

12月2日

取り扱い郵便局『飯豊』より
会費として6000円お振り込みい
ただいた会員の方のお名前の記入
がありませんでした。お心当たり
の方は022-265-8867(月～土)
事務局までお知らせください

編集後記

第16期電話相談員養成講座も終了し、来年も新しい仲間が増えそうだ。ここ数年、年齢の若い相談員が増えてきた。キャプネットの20年、30年後を考えると、やはり法人化は避けられないだろう。今、煩雑な書類制作を担える脳細胞を維持している事務局スタッフに作業を押しつけ、遅々とはあるが法人化が進んでいる。来年には動きがあるかもしれない。おっと、ところで相談員に年齢は関係ない、いろいろな世代が混在して互いに良い影響を与え合えれば最高だ。お姉様方！頼りにしてます。これからもよろしく 事務局 舟山